

筑豊小児科医会会報

Vol. 181 2022. 02



Contents

- ◇ 今月のトピックス（診療支援課：DS室 医師事務作業補助者）
- ◇ 小児科関連勉強会（オンライン配信）のご案内
- ◇ 地域連携ささえあい小児診療
- ◇ 飯塚病院 月間診療のまとめ《2021年11月》
- ◇ 専攻医・研修医のご紹介
- ◇ AI-CAP 通信
- ◇ Pediatrics note（小児科 診療部長 大矢崇志）

発行：飯塚病院小児センター（飯塚市芳雄町 3-83）
（代表）TEL：0948-22-3800

今月のトピックス（診療支援課：DS室 医師事務作業補助者）

● 医師事務作業補助者とは

医師の指示で事務作業の補助を行う専従の者を医師事務作業補助者といい、医師事務作業補助体制加算を算定している医療機関は、施設基準で定められた研修を必ず修了しなければなりません。研修期間は、配置後6ヶ月間と定められており、この6ヶ月間の業務内容に加えて、基礎知識の習得を目的とした32時間以上の研修が必要となります。

また、業務内容は、診療報酬の施設基準によって決められており、診断書や診療情報提供書などの文書作成補助、診療記録への代行入力、診療に関するデータの整理、感染症のサーベイランス事業等の報告といった行政への対応などが、医師事務作業補助者の業務範囲となっています。

● 飯塚病院 医師事務作業補助者について

当院の医師事務作業補助者をDS（ドクターセクレタリー）と呼び、2008年から採用を進め、医師の負担軽減に努めて参りました。現在、50名のDSが診療支援課DS室に在籍し、各診療科を担当しております。

小児センターには、小児科2名、小児外科1名、また新生児センターに1名を配置し、医師が本来の診療に専念できるようサポートを行っています。

今後は、厚生労働省による医師の働き方改革の推進に向けて、さらに尽力できるよう取り組んで参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。



診療支援課:DS室 スタッフ

（前列 左から3番目 小児外科 加藤、4番目 新生児センター 八谷、5番目 小児科 浅田、6番目 金崎）

小児科関連勉強会（オンライン配信）のご案内

■ 第 333 回 筑豊小児科医会勉強会

●日 時：2022年2月17日（木）18：30～19：45

➡ 講演 1 18：30～19：10

「乳幼児健診で発達が気になる子どもへの対応について」 近藤医院 近藤里香子 先生

➡ 講演 2 19：10～19：30

「こども発達療育センターテコテコ 相談部門トントンの事業紹介、実績報告」

飯塚市・嘉麻市・桂川町 障がい者基幹相談支援センター
発達障がい児等相談支援機能強化事業
相談支援専門員 小出悦子 氏

*ご視聴方法は案内状をご確認ください

■ 福岡県児童虐待防止医療ネットワーク事業令和3年度 筑豊子ども虐待防止講演会 (AI-CAP 15周年記念講演会)

●日 時：2022年2月22日（木）18：30～19：50

➡ 講演 「地域でできる子育て支援～医療・教育・保健・福祉の四葉の連携～」

種子島医療センター 小児科 部長 岩元二郎 先生

*ご視聴方法は案内状をご確認ください

■ 令和3年度 筑豊地域小児在宅医療定例研修会（2月）

（飯塚圏域障がい児者地域自立支援ネットワーク 共催）

●日 時：2022年2月24日（木）

➡ 講演 「気管喉頭分離術をうける子どもたちについてのお話」

飯塚病院 小児科 部長 岡松由記

*視聴をするために案内状を希望される方はご連絡ください。

■ 第 334 回 筑豊小児科医会勉強会（総会）

●日 時：2022年3月17日（木）

地域連携ささえあい小児診療

近年、小児科医の不足などにより小児救急医療の確保が危ぶまれる中、飯塚地区・直鞍地区・田川地区の小児科医師が、飯塚病院小児科とスクラムを組んで飯塚病院救命救急センターの夜間小児診療に参加し、筑豊地域小児救急医療の充実を図ろうという取り組みです。

2月		
2/1	火	飯塚市立病院 穂吉 秀隆
2/8	火	社会保険 稲築病院 片山 邦弘
2/10	木	飯塚市立病院 穂吉 秀隆
2/18	金	荒木小児科 荒木 久昭
2/22	火	たなかのぶお小児科医院 田中 信夫

月・水・金は穎田病院の医師が担当します。

飯塚病院 月間診療のまとめ 《2021年11月》

- 入院患者数 76人 ●外来患者数 1,099人 ●救命救急センター受診者数 270人
- 新生児センター入院患者数 13人 ●分娩件数 28件 ●手術件数 8件
- 主要疾患数（退院患者数：61人）

低出生体重児	7	喘息	4	急性胃腸炎	3
痙攣及びてんかん	3	新生児呼吸障害・心血管障害	3	肺炎・気管支炎	3
急性上気道感染症	2	腸重積・腸閉塞	1	高ビリルビン血症及び黄疸	1
新生児感染症	1	その他	33		

●11月紹介件数

小児科：101件			小児外科：20件		
①	宮嶋医院	8	①	田川市保健センター	3
	こどもクリニックもりた	5		松尾ファミリークリニック	
②	平野医院		③	栗原小児科内科クリニック	2
	雪竹医院			津川診療所	
⑤	千手医院	4	⑤	荒木小児科医院	1
	田中医院			尾上小児科医院 ほか8件	

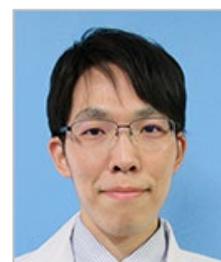
専攻医・研修医のご紹介

● 総合診療科 専攻医 3年目 やまもと けん 山本 賢

総合診療科専攻医3年目の山本賢と申します。

これまで成人中心の医療に従事してきましたが、この度小児医療に携わる機会を得たことに喜びを感じているとともに、大きな責任も実感しております。外来入院で関わるお子様やご家族様の不安を解消し、日常生活に戻る一助になるべく努力する所存です。

3カ月の短い期間になりますが、よろしく願いいたします。



● 総合診療科 専攻医 1年目 やの こうた 矢野 恒太

飯塚・穎田総合診療専門研修プログラム専攻医1年目の矢野恒太です。

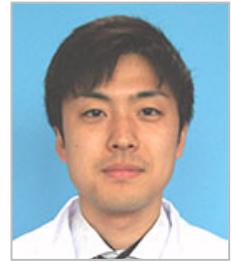
1月11日より3ヶ月小児科研修をさせていただきます。山口県宇部市出身で大学は久留米大学です。将来地元の山口県に戻る予定ですが、プライマリケア外来をするにあたり小児疾患にも出会うことがあると思います。疾患の勉強だけではなく小児科専門医の先生方の小児の診察の仕方や小児とのコミュニケーションの取り方なども学びたいと思っております。3ヶ月頑張りますのでどうぞよろしくお願いいたします。



● 初期研修医 2 年目 なかのこうた 中野 幸太

研修医 2 年目の中野幸太と申します。

1 月 31 日より 5 週間 NICU で研修をさせていただきます。来年度からは、産婦人科として後期研修を受ける予定であり、NICU での新生児管理等を中心に学ばせていただきたいと考えております。短い研修期間ではありますが、NICU で得た知識や経験を少しでも今後の産科での診療に還元できるよう、精一杯研修させていただきたく思っております。どうぞよろしくお願いいたします。



AI-CAP 通信 飯塚病院小児虐待防止委員会（通称 AI-CAP）より活動報告などをお伝えいたします。

活動報告

12 月 22 日にチルドレンファーストふくおかセミナー「なぜ子どもたちを救えないのか～子ども虐待死亡事例を考える～」が開催されました。

筑豊地区をはじめ、近年発生した死亡事件を通じて、地域共通の問題や社会的ネットワークの構築について考えました。会場とオンラインで市民約 160 人が参加され、未来を担う子どもたちのため私たちにできる支援について、活発な交流が繰り広げられました。

取り上げた事件の共通点として、DV（ドメスティック・バイオレンス）があげられます。今回は DV の現状について共有いたします。

DV（ドメスティック・バイオレンス）とは？

一般的には「配偶者や恋人など親密な関係にある、又はあった者から振るわれる暴力」という意味で使用されることが多い。

身体的暴力

精神的暴力

性的暴力

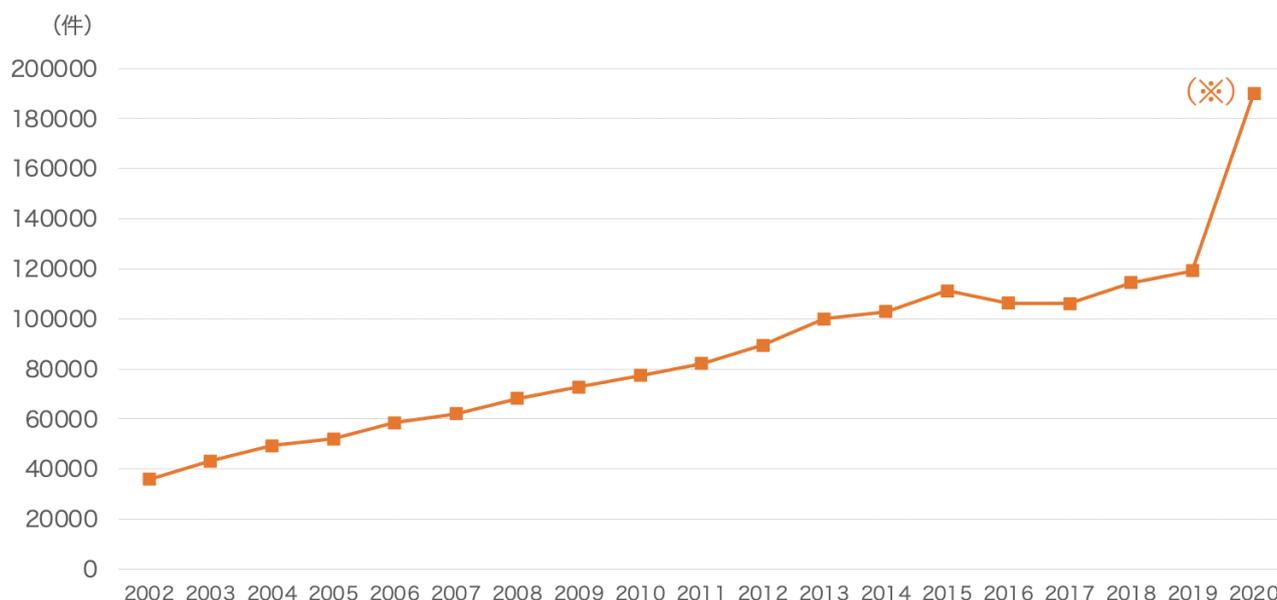
経済的暴力

参考資料：内閣府男女共同参画局「DV（ドメスティック・バイオレンス）と児童虐待 —DVは子どもの心も壊すもの—」



2004（平成16）年の「児童虐待の防止等に関する法律」の改正により子どもの目前でのDVも「心理的虐待」に当たることが明確化されている。

配偶者暴力相談支援センターにおける相談件数



内閣府男女共同参画局

(※) 配偶者暴力相談支援センターと、2020年4月から開始された「DV相談プラス（SNS相談、メール相談、外国語相談等）」の件数を集計したもの

配偶者暴力相談支援センターに寄せられる相談件数は年々増加しており、新型コロナウイルス感染拡大による環境の変化（生活不安やストレス等）に伴い、深刻な被害が懸念されます。複合的被害に付随して、ドミノ式に子ども虐待や経済的困窮といった、様々な問題に直面するケースも少なくありません。

次回「子ども虐待とDV」についてお話しする予定です。

小児虐待防止委員会 委員長 田中 祥一郎

<AI-CAP 事務局へのお問い合わせ> TEL : 0948-88-8220 (直通) FAX : 0948-88-2806

Pediatrics note (小児科 診療部長 大矢崇志)

正月に電話で両親と話して気づくことがありました。父と話す時の自分と母と話す時の自分が違うのです。話の内容はもちろん、気分、声量、声色など、色々な点で明らかに違うモードで話していました（当たり前のことですが、発見でした）。

乳幼児期に子どもは主な養育者（多くは母親）に愛着を示し、養育者との関係性を基盤にして他者との関係を築きます。今でも母への関わり方が私の基盤で、それを微調整して父と話していたのかもしれませんが。

そんなことを思いながら、ウイルスになった自分を妄想しました。（以下、妄想です）

コロナウイルスを想像してください。表面にスパイク蛋白と呼ばれる突起がたくさん出ています。コロナウイルスはこの突起を使い人の細胞にくっつきます。さらに、相手によってこの蛋白の形を変えてくっつきやすくなります。

同じように愛着形成の過程で、子どもたちは養育者にくっつきやすくなるスパイク蛋白のような“突起”を心に生やします。突起には鍵がついていて、その鍵は親の心の鍵穴に合った親の心を開きやすい形をしています。参加する社会が広がるにつれて、子どもたちはそこで接する相手に合う鍵がついた突起を増やします。その鍵の基盤になるのが養育者用に作った鍵なのです。

「子は親の鏡」ということわざがありますが、「子は親の鍵」とも言えるでしょう。鍵穴が埋まっていたら、子は次第に鍵を刺さなくなります。鍵穴の大きさが日によって違ったら、いつまで経っても鍵ができあがりません。鍵穴の構造が複雑だと複雑な鍵ができあがり、応用が効かなくなるかもしれません。

また、うまく鍵ができあがっても、他の相手に合わせて突起の形を変えたり、数を増やしたりするのが苦手な子もいます。コミュニケーション（相手に合わせて上手にくっつくこと）が苦手な子どもたちに出会った時、突起や鍵、鍵穴のうち、どこに課題があるのか考えてみると良いかもしれませんね。

最新の情報は 飯塚病院ホームページよりご覧ください。

また、小児科・小児外科の詳しいご紹介や診療実績は「診療科のご紹介」をご覧ください。

外来担当表



小児科のご紹介



小児外科のご紹介

